

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501258		
法人名	有限会社 ラピネス		
事業所名	グループホーム すずらん荘		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条2丁目1-23 (011) 894-3000		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】 (19年11月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年7月19日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	6人	常勤	5人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	28,000円
敷金	(有) (144,000円)		暖房費6,000円(11月~3月)
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	400円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (12月10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛内科クリニック・岡田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、区内に13あるグループホームのなかで、最初に開設され7年目を向かえております。また、管理者は、区内のグループホームで組織する管理者会議の代表を務めるなど、常にオピニオンリーダーとしてグループホーム全体のスキルアップに、熱意をもって取り組みが行なわれています。さらに利用者の状況把握が優れており、事前の自宅訪問などでの調査を綿密に行なうことで、入居後の行動パターンの掌握を可能にしています。介護度の高い利用者が比較的多いなか、安全に、利用者それぞれの思いを優先させて、自分のペースで暮らせるホーム作りをしています。家族への報告も丁寧で、情報交換を細やかに行なわれており信頼関係が築かれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である[運営理念の揭示]、[運営推進会議への町内会からの参加]、[共用空間の工夫]、[連絡ノートの職員のサインの徹底]、[金銭出納帳確認時の承認印]、[ホーム機能や認知症を理解してもらう働き掛け]など、それぞれができることから改善、もしくは改善に向けた努力が見られました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	勉強会やミーティングで自己評価の各項目を理解し、日々の介護に取り組まれています。その取り組みの中から、職員それぞれが、自分の自己評価を作りあげ、勉強会に持ち寄り、話し合いの後、管理者がまとめあげています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	19年2月に第1回運営推進会議を開催し、運営推進会議の目的、外部評価の報告、検討、ホームの活動紹介などが話し合わせ、活発な意見が出されています。会議の内容は職員に報告して、サービスの向上に役立っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会をホーム主催で年1~2回開催され、親睦を兼ねたホームと家族の交流のなかから、意見交換が図られています。また、家族の了承を得て、家族名簿を作成し、家族同志の交流もできるよう配慮されています。家族からの意見は、カンファレンスノートに記載し、話し合い、ホーム運営に反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設以来7年を経過し、近隣の住民とは顔なじみで、毎日の散歩、花の水やり時などに挨拶を交わすなど、日常的なお付き合いをしています。町内会に加入し、町内の清掃活動やお祭りにも積極的に参加しています。また、地域の方々には「すずらん通信」を作成し、回覧したり、職員が各家庭に配り歩くなど、ホームを知ってもらう努力を続けています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	数年前にホーム理念を見直し、「いつまでも、その人らしく、支えあい、助け合いながら、自然に恵まれた環境の中で、地域に根ざした生活の場となるよう目指す」を掲げ、地域との何気ない触れ合いを大切にしたい理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週、月曜日の朝、引継ぎ時に読み上げ、職員みんなで、再確認しながら、日々の介護に取り組んでいます。また、理念は業務日誌の前面に綴じ込み、いつでも目に触れられるようにされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設7年目なので、近隣の住民とは顔なじみで、毎日の散歩、花の水やり時などに日常のお付き合いをされています。町内会に加入し、町内の清掃活動や祭りなど利用者の体調に配慮しながら参加しています。また「すずらん通信」を職員が近隣の家庭に配り歩くなど、ホームを知ってもらう努力をされています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会やミーティングで自己評価の各項目を理解し、日々の介護に生かされるよう努めています。今回の自己評価も職員それぞれが記入し、勉強会に持ち寄り、話し合いを経て管理者がまとめあげています。前回の課題への取り組みも、できることから改善し前向きに検討されています。		

札幌市厚別区 グループホーム すずらん荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年2月に、第1回運営推進会議を開催し、外部評価の報告、検討など活発な意見がだされています。会議の内容は職員に報告され、サービスの向上に役立っていますが、定期的な開催に至っていません。	○	運営推進会議は、2ヵ月毎に開催し、自己評価、及び、外部評価への取り組みのモニター役を担って頂くことを期待します。また、会議に参加する委員も色々な立場の人の参加を求めるなど、実りある会議への取り組みにより、サービス向上に活かされることを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、区内グループホームの管理者会議の代表を務めており、市の担当者と情報交換しながら、自らのホームに留まらず区内13グループホームのレベルアップに努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりやホームのお知らせ、行事予定などを載せた「すずらん便り」を毎月作成し、小遣い帳のコピー、処方箋内容などを同封して家族宛に郵送しています。また、訪問時には、小遣い帳とレシートの照合の確認サインを得ています。また、家族とは電話や訪問時にきめ細かく報告や情報交換が行なわれ、信頼や協力関係が築かれています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	親睦を兼ねた家族会をホーム主催で年1～2回行ない、家族とホームの交流の中から意見交換が図られています。また、家族の了承を得て、家族名簿を作成し、家族同志の個人的なお付き合いができるよう配慮されています。家族からの意見は、カンファレンスノートに記載し、話し合い、ホームの運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむなく離職される場合は、新しい職員への引継ぎを確実に進め、馴染みの職員が、利用者のダメージを最小限とするよう支援しています。また、引継ぎ期間がないような場合も、利用者へ不安を与えないよう配慮されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会は毎月行ない、時折社長が講師になるなど職員を育てる意識は強いようです。また、区内外での研修会にも経験に応じた参加を勧めるなどスキルアップによるホームのサービス向上を目指しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者と円滑な交流を図るため、視察研修の受け入れ日程の調整を行なうなど、ほかのグループホームと共同して職員の視察研修を企画し、交流による地域全体のスキルアップに取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの相談後、事前訪問に伺い、居室、自宅での行動パターン、自宅外回りなどの環境を写真に撮りながら、暮らしぶりや本人、家族の意向をじっくり傾聴するなど、以後の暮らしに役立てています。また、ホーム見学を事前にしてもらい、馴染みながらの利用につなげられるよう支援されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は、利用者の思いを全身で受けとめることを大切に考えており、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にする関係を築こうと努めています。職員も良く理解しており、自分の心の乱れがあると、全身で受けとめることができず、良い関係が築かれないため、常に平常心を心掛けて利用者と接するようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から、情報収集は丁寧に行ない、自宅など周辺環境の写真と照らし合わせながら、ホームでの暮らしの参考にしています。また、日々の係わりの中で言葉や表情、行動などから思いや意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者は、介護するうえで、「利用者が主体であり、優先である」ことを大切にされているので、それを基本にアセスメントを含め、職員みんなでカンファレンスし、家族の意向も伺いながら、ケアプランを作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランのコピーを利用者それぞれのケース記録ファイルに入れ、プランにもとづいた記録がされています。状況変化時も、直ぐ記録し、情報を職員間で共有化して、検討、見直しが行なわれています。状況変化が生じていない場合は、3ヵ月毎に家族の意向も伺いながら、ケアプランの見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、掛り付け医への通院介助や美理容院への送迎を支援しています。また、2階の高齢者下宿の人たちも一緒に楽しめるホーム行事を企画して行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の掛り付け医のほかに、ホームの協力医が往診を行ない、24時間体制で医師や看護師と密に連絡や相談ができるよう支援体制が整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応の方針は文書化はされていませんが、家族の意向を伺い、医療機関と話し合いをしながら、医療処置や入院が必要に至るまで支援されています。	○	重度化や終末期に向けたホームの対応方針は、できるだけ早い段階から、文書を添えて、本人や家族に説明し、重度化になる前に医療機関を交えて、十分な事前の話し合いをするなど、方針の内容を事前に共有する取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護するうえで、利用者のプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮されています。個人情報に係わる取り扱いが必要な時は、その都度、家族に内容を説明し了解を得ています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者や職員は、利用者優先を大切に介護しており、利用者は自分のペースでゆったりと趣味や興味のあることをして過ごしています。視察研修で当ホームを訪れた研修生が「利用者がのびのびしている」との感想からも伺えます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって、食事は生活の中で1番の楽しみなので、買物、下ごしらえ、片付けなどの利用者のできることは強制せずに、楽しみながら行なえるよう支援がされています。また、利用者それぞれの食事環境を整えるため、座席などの工夫が見られます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間は決めてなく、利用者の希望やしぐさや行動で察し、週2～3回は入浴できるよう支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人は、毎食後、早々に台所に立ち後片付けに励んでいます。また、以前の職業を活かしてパンク修理をする利用者、亀の餌やり、花の水やりをする利用者などを生活の中に取り入れて支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護度の高い利用者が比較的多いため、利用者の体調や気分が優れないことも時折あり、散歩できる利用者には、車椅子も利用しながら毎日支援し、できない利用者には、玄関先の花の水やりやベンチに腰掛けての気分転換を図るなど、利用者それぞれに合わせて支援されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	早出勤務時間から開錠し、遅出勤務終了時間に施錠しています。外出しそうな利用者には、さりげなく見守り、安全面の配慮をされています。また、施錠していないと不安だと、鍵を掛けてしまう利用者には、専用の鍵を付けるなどの工夫をして、日中は開錠されています。		

札幌市厚別区 グループホーム すずらん荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、日勤時間を想定した避難訓練を年2回、実施されています。利用者の状況に合わせて誘導をしながら近所の避難場所まで訓練をしていますが、夜間を想定した訓練は実施されておられません。	○	夜間の職員が少ない時間帯を想定した避難訓練を実施し、具体的な避難誘導策を整備されること、また、近隣の住民に災害時対策に関する理解を深めてもらい、協力体制を築く取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの摂れた献立を作成しています。利用者の咀嚼や嚥下状況に合わせて、刻むなどの工夫をし、毎食毎の摂取量を把握しています。水分を摂りたがらない利用者には、1日の飲水量をチェックし、トータルでの必要量を支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などの共用空間は、とても家庭的な雰囲気、衛生的であり、居心地良く感じられます。壁には、大きな木を張り付け、季節毎に花や紅葉や雪などに变化させて季節感を感じるよう工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが、今まで使い込んでいた家具を持ち込んでいるため、馴染みの部屋になっていて、過ごしやすそうに見えます。また、畳敷きで和室にされている利用者もあり、それぞれの利用者が過ごしやすいう工夫がされています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。